



HP「辻よし子と歩む会」で検索

# 会派くさしぎ 辻よし子の 市議会レポート

☎ 197-0802

あきる野市草花 3012-20

T&F : 042-559-6941

携帯 : 090-9386-1275

e-mail : kusasigi@nifty.com

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず、コツコツと手作りの政治を！

## 3月議会では、2017年度の予算が審議されました

### コンビニ交付は、本当に必要？ 1枚当たり1200円の税金が使われる！？

コンビニ交付とは、住民票などをコンビニで取得できる便利なシステムです。その基盤整備に今年度540万円、来年度からはランニングコストとして毎年830万円かける予定です。

しかし、これが利用できるのは、マイナンバーカードを持っている人だけ。現在のところ、市民のわずか8%にしかありません。これまでの交付数から試算すると、1枚当たりの交付に1200円もの税金が使われることとなります。市役所での交付手数料は200円（住民票）ですが、コンビニ交付の手数料はそれと同額か、もしくはコンビニ交付を促すために、もっと安くする可能性もあるとのこと。果たして、これが正しい税金の使い方と言えるのでしょうか？

課題がある中、市が急ぐ理由の一つは、国の補助金が再来年で打ち切られるからです。ここには、マイナンバーカードを普及させたい政府の目論みがあります。

こうした問題点を予算委員会で指摘しました。

### スクールソーシャルワーカーの予算は、 わずか50万円

スクールソーシャルワーカーとは、暮らしの中で困り事を抱える子どもを支援し、学校だけでは解決できない問題を、家庭や地域、関連機関とも連携しながら解決していく

専門家です。多忙な先生が家庭や地域の中まで入っていくのには限界もあり、専門家の力が必要です。

あきる野市では今年1月に初めてスクールソーシャルワーカーを配置しました。まずは週1日1人で様子を見るとのことでしたので、新年度からは日数や人数が増えることを期待していました。ところが、付いた予算はわずか50万円。市内全ての小中学校が対象で、週1日1人のみ。希望する学校だけに赴くとは言え、あまりにも少な過ぎるのではないのでしょうか。

### ふるさと納税の見直しを。 過熱する自治体間の税金争奪合戦

ふるさと納税は、応援したいふるさとに納税する制度として2008年に始まりました。しかし、今や2,000円を払えば豪華な返礼品がもらえる「お得な」制度へと様変わりし、自治体間の返礼品競争が過熱しています。

予算委員会の中では、「制度がある以上、あきる野市も競争に勝てるよう頑張るべき」との意見が複数の議員から出されました。それに対して、私は「仮にあきる野市の返礼品がヒットして寄付が増えたとすれば、どこかで税収が減って困る自治体が出る。地方自治の精神から外れた制度であり、見直すべき」と発言しました

東京23区では、ふるさと納税による昨年度の区民税の減収が129億円にも達し、国へ制度の見直しを求める意見書が出されています。また、所沢市長も返礼品競争からの離脱を宣言しました。

賛否の分かれた主な議案（○は賛成、×は反対）	くさしぎ (辻)	自民党 志清会	公明党	市議会 自民党	未来	共産党	結果
平成29年度 一般会計予算	×	○	○	×	×	×	可決
平成29年度 引田駅北口土地区画整理事業 特別会計	×	○	○	×	×	×	可決
平成29年度 下水道事業 特別会計	×	○	○	○	○	○	可決
あきる野市税賦課徴収条例等の一部を改正する条例	×	○	○	×	×	×	可決
陳情 介護保険制度の改善を求めた陳情書	○	×	×	○	○	○	不採択

各会派の人数：くさしぎ（1）、志清会（9）、公明（3）、あきる野市議会自民党（1）、未来（4）、共産（3）

# 辻よし子の一般質問

## 住民の理解と合意に基づく 土地区画整理事業のあり方について



住民との話し合いがないまま、都市計画マスタープランに区画整理事業を明記したことが、問題の始まりでは……。

引田駅北口の土地区画整理事業について、議会では賛否が分かれています。人口減少と高齢化が進んでいる今、引田駅前に商業

地区をつくり、道路沿いにマンションや店舗を呼び寄せ、農地をつぶして企業を誘致することが、本当に市民の望んでいるまちづくりでしょうか。

また、東京 26 市の中で財政状態が一番厳しいあきる野市が、総額 77 億円以上の大規模開発を進めることも不安です。この事業は、一旦立ち止まって見直すべきです。

今回の一般質問では、現在進められている地権者の意向調査に焦点を当てました。区画整理事業では、今ある宅地や畑が、産業・商業・住宅などのゾーンに区分されるため、自分の土地をどのゾーンに何㎡移すか、意向を示さなければなりません。そもそも、ゾーンの位置や大きさは、一体誰が決めたのでしょうか。本来であれば、住民が新しいまちのイメージを出し合い、十分に議論し、ゾーニング図を作るべきであり、それが住民参加のまちづくりのほうです。

ところが、ゾーンを決めた当時の議事録を見ると、市と数人の役員（まちづくり協議会）で原案を作り、ほとんど議論をしないまま原案通りに決めていたことが分かりました。しかも、最初から議論を避けている様子さえ、うかがえます。

こうした経緯を具体的に示し、進め方に問題があったのではないかと指摘しました。しかし、市側は、その非を認めませんでした。

後半は、意向調査に書かれた地権者の声を紹介しました。そこには、「本当はもっと農業を続けたいが、それができなくなるのが残念でならない」「長年耕作してきた土地を離れ、新しい土地で耕作しなければならないことが不安だ」「今

住んでいる場所が最高なのに、年を取ってからの区画整理は苦痛だ」といった内容が書かれています。全部で 11 人の声を紹介しました。

最後に、この進め方に問題を感じないのであれば、「市民と協働のまちづくり」の看板は外すべきではないかと市長に質しましたが、明確な答弁はありませんでした。



## 汚水整備計画の策定について



汚水整備とは、トイレや台所・風呂などから出される汚水を下水道や合併浄化槽などによってきれいにし、自然に戻すシステムのことです。汚水整備は、1958 年の水質保本法や 1967 年の公害対策基本法などに基づいて進められてきました。あきる野市でも 35 年程前から下水道整備が始められました。しかし、次第に人口密度の高い地域から低い地域に整備が移ってきたことに伴い、経営が厳しさを増し、市の財政を圧迫しています。これは全国の多くの自治体に共通する問題です。そこで国では、汚水処理の方法を検討し直し、今後 10 年を目標に汚水整備を終えるよう、方針を出しました。これに従ってあきる野市でも、今年 12 月までにアクションプランを立てることになっています。

しかし、あきる野市では、下水道事業について十分な経営分析を示していません。そこで、再質問の冒頭に、自ら分析したグラフを示し、厳しい経営状況にあることを指摘しました。また、アクションプランの作成に向けて、市は昨年度 850 万円の業務委託をしていますが、その報告書の内容がずさんであることが分かりました。そ

して、ほとんど同じ内容の業務を今年度再び 750 万円で委託しています。そこで、報告書の問題点を指摘し、このような委託は、税金の無駄遣いではないかと追及しました。

税金で委託料を払うのだから、責任をもって成果をチェックして欲しい。

**会派「くさしぎ」**は、「草の根市議」から取った名前です。政党や大きな組織に属さず、市民の横のつながりを大切に活動しています。現在は、辻よし子だけの一人会派です。

\*クサシギは水辺の野鳥で、市内にも飛来します→



**辻よし子プロフィール**：1960 年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995 年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぶ会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11 以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015 年 10 月の補欠選挙で市議会議員に当選。現在、夫、大 2・高 1 の息子、ネコ 1 匹と草花に暮らす。



HP をご覧ください！